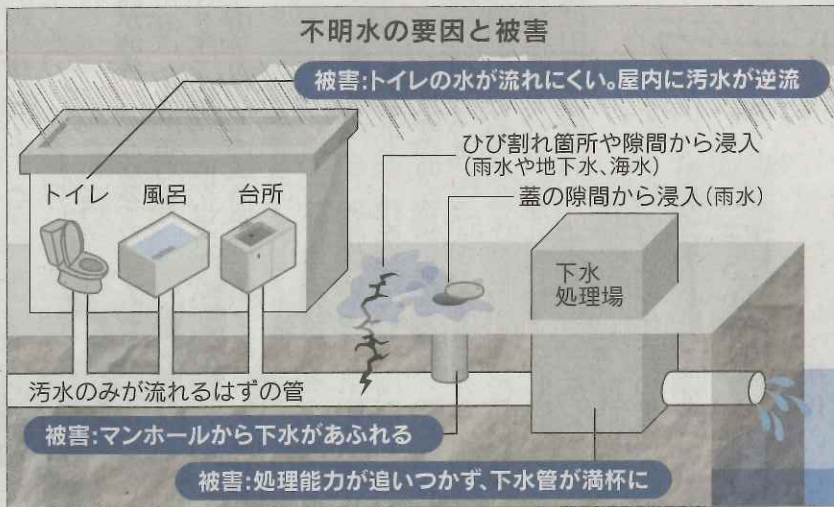


「不明水」逆流 生活襲う

下水道に流れ込む想定外の水「不明水」に自治体が頭を悩ませている。雨水や地下水がどこからか下水道に浸入して発生。マンホールから水があふれ出るなど、生活に影響を及ぼすケースもある。下水管の老朽化で今後さらに被害が広がる恐れがあり、自治体が対策を急ぐ。

老朽下水管に雨や地下水



降雨時に発生する不明水で、マンホールから水があふれる被害などが発生している(昨年10月、仙台市)

「トイレの水が流れにくい」「台所でポコポコ音が出る」。2017年7月の九州北部豪雨の際、佐賀県江北町の役場

家や道路浸水、対策急務

にはこんな情報が寄せられた。同町の下水道は平時の2倍の水を処理する能力があるが、どこから流れ込んだか分からない水で能力を超過。土地の低い地域を中心に生活排水が流れにくくなり、町は防災無線で「風呂の水は次の日に流して」と呼び掛けた。江北町で同様の事態が起きるようになったのは5年ほど前。17年度に約2千万円を計上し今夏までに「不明水」の浸入経路を突き止める計画だ。国土交通省によると、多くの自治体は汚水と雨水を別の下水管に流す「分流式」を採用する。雨水は雨水管を通り、汚水管には流れない設計。だが、雨水がマンホールの隙間から浸入したり、住宅の雨水管が誤って汚水管に接続されたりした。排水管に接続されたりし成したり、雨水や海水が流入する場所を修繕したりするなど他自治体に先駆けて対策を進めてきた。それでも、13年度に下水処理場で処理した全水量の15%ほどが不明水。下水道部計画課の樋野創課長は「マンホールから汚水が噴き出るとは減った。しかし、市内の排水管は約4千キロあり、一気に不明水を解消するのは難しい」と話す。

仙台市では東日本大震災以降、不明水が問題になるケースが増えた。3月上旬の大雨時にも市には「マンホールから水が噴き出し始めた」などの問い合わせがあった。震災で下水管に細かなひび割れが発生したとみて、原因の特定を進める。ただ「浸入箇所がいくつあるかわからない。浸入をゼロにするのは難しいのではないか」(仙台市下水道調整課)。

神戸市は1999年に不明水の実態調査を実施。老朽化で雨水が流れ込む可能性がある家庭の排水設備の交換費用を助成したり、雨水や海水が流入する場所を修繕したりするなど他自治体に先駆けて対策を進めてきた。それでも、13年度に下水処理場で処理した全水量の15%ほどが不明水。下水道部計画課の樋野創課長は「マンホールから汚水が噴き出るとは減った。しかし、市内の排水管は約4千キロあり、一気に不明水を解消するのは難しい」と話す。

30年近く自治体の不明水の調査を手掛けているペンタフ(大阪市)によると、下水管は設置から50年ほどでひびから雨水が浸入するなどの劣化が進む。同社の担当者も「管の老朽化はさらに進む。ゲリラ豪雨が多くなれば不明水に悩む自治体は増えるだろう」とみる。

国土省下水道部は「問題意識しており、国としても対策を考えていきたい」としている。

「センサー」はおりまける。現場発のレポートを届ける「ドキュメント日本」を新たに始めます。



中2男子骨折いじめか

要があるが、学校は15日になって報告。17日に保護者が市教委に事情を説明するまで、いじめの可



アン・チュック容疑者(27)。捜査本部は認否を明らかにしていない。

置し